

令和8年度 学校経営計画書

石川県立門前高等学校

校長 畠 洋 介

1 教育目標

- (1) ふるさとに誇りを持ち、自ら学習を調整することで身につけた資質・能力を活用することにより、地域の活性化に貢献できる人間の育成
- (2) 高い規範意識と活力に溢れ、自分の良さや可能性を認識するとともに、多様な人々と協働できる人間の育成

2 中・長期的目標

(1) 学校の現状

- ① 各課・学年において若手職員が主体的に業務に参画できる体制を整え、組織的・協働的に業務を推進し、「働き方改革」を推進していく必要がある。
 - ・教職経験の浅い職員が過半数を占めているため、一部の教職員に業務が偏ってしまう傾向があり、組織としての協働体制が機能していない。
 - ・教職員は、教育目標実現のため、分掌・学年・教科・個人において、PDCAサイクルで現状分析を行い、改善に努めている。
- ② 魅力ある教育活動の推進
 - ・輪島市高校魅力化プロジェクトが安定的な入学者数の確保と進路実現に結びついている。
 - 野球部指導体制の充実（野球指導アドバイザー、部活動指導員の配置）と強化策の成果（3大会連続県大会ベスト8、1年生大会準優勝）
 - 学習支援センタースタッフと協働した学習指導による生徒の学力保障と進路実現
 - ・学校と地域が一体となった様々な教育活動や探究活動は定着しているが、探究の幅を広げ、質的な深化を図る必要がある。
 - ・連携型中高一貫教育校の特性を活かした地元中学校との教育活動の推進
- ③ 生徒の学力や2つのコース（普通・キャリア）の特性及び生徒一人ひとりの進路希望に応じた方策を推進していく必要がある。
- ④ 災害に対する自助、共助の精神を風化させないこと及び被災経験を探究的な学びへと価値の転換を図る取り組みが求められる。
- ⑤ 多様な生徒の増加に伴い、授業においてインクルーシブ教育をはじめ、個々の生徒に達成感や自己有用感を与え自尊感情が高まるような授業改善をする必要がある。

(2) 生徒に関する中・長期的目標

- ① 地域と密着した「総合的な探究の時間」において探究学習の基本の定着を図るとともに、探究の幅を広げ、質的な深化を目指す。
- ② 全教育活動において生徒の自己肯定感が高まるように工夫する。また、校内での構成的グループエンカウンターを通してコミュニケーション力や他者への思いやりと敬愛する心を育む。
- ③ 低学年次より進路意識を醸成し、進路希望に応じてその実現に適した努力を主体的に取り組むことができる生徒を育成する。
- ④ 「GIGAスクール構想」を通して個別最適な学びによる学力向上を図り自己の進路実現や部活動に努めさせ、目標達成を通して人間形成と地域の活性化に貢献できる人材の育成を図る。
- ⑤ 他地域や他校と交流することによって、被災経験を探究的学びとして再構成し、自助・共助の精神と奥能登の創造的復興を担う資質・能力を備えた生徒を育成する。

(3) 教職員、学校組織等の望ましい在り方

- ① 「生徒は教師を映す鏡である」ことを意識して生徒の目線で自身の教科・生徒指導を振り返りながら、特に低学年次の教科指導力・生徒理解力を高める工夫・改善に取り組む。
- ② 地域と密着した探究活動において、教職員が外部資源を活用するなど、「問い」を深化させ探究活動の質を高める指導力を身につける必要がある。
- ③ 生徒の学力や両コースの特性に応じた進路意識を低学年次から醸成できる資質・能力を身につける。また、個々の生徒が主体的に進路希望実現に向けて努力できるよう指導、助言できる。
- ④ 教職員が自助・共助の視点を教育活動に位置付け、平時から組織的に防災教育に取り組むとともに、他地域や他校との交流を探究的学びへとつなげる協働的で継続性ある学校組織を構築する。
- ⑤ ワークライフバランスに配慮しながら分掌業務を効率的・戦略的に推進し、質の高い教育活動を実践する。中でも、若手職員の年間行事への主体的な参画を促進する。

3 今年度の重点目標

- (1) 全教育活動を通して生徒一人ひとりの自己肯定感を高めるため、授業改善等により教員の生徒指導力・教科指導力・災害後の心のケアを含めた生徒理解力の向上を図る。
- (2) 「門前町・總持寺通り商店街の創造的復興」を探究活動のテーマとし、地元のみならず他地域、他校との交流によって「問い」を深化させ、学びを社会につなぐことで探究活動を質的に高める。
- (3) 「GIGAスクール構想」を通して低学年次より個別最適な学びに取り組みせることで両コースの特性を高め、卒業後の生徒の多様な進路実現につなげる。
- (4) 他地域や他校と交流することによって災害に向き合い続け、自助・共助の精神を涵養するとともに、被災経験を探究的学びとして再構成し、奥能登の創造的復興につなげる。
- (5) 各課・学年において若手職員が主体的に業務に参画できる体制を整え、組織的・協働的な業務推進を通して、ワークライフバランスの確保と教育活動の充実を図る。